

# 規制改革会議 第20回健康・医療WG

## 健康・医療・介護分野における ICT化について

平成26年4月15日  
厚生労働省

# ICT化に関する基本的な考え方


## 1. 世界最先端IT国家創造宣言

世界最先端IT国家創造宣言(平成25年6月14日閣議決定)

- ➡ 世界最高水準のIT利活用社会を実現するための各種取組を進める
- ➡ 健康・医療・介護分野(以下「医療等分野」)
  - 医療情報連携ネットワークの普及や、介護サービスの客観的な評価とサービス内容の向上に資する取組を通じた、効果的・効率的で高品質な医療・介護サービスの展開
  - 現役世代からの健康増進等、医療・健康情報等の各種データの活用推進

## 2. ICTの利活用による可能性と留意点

- ICTの技術の活用は、情報連携や情報提供の迅速化、効率化や質の向上、また、膨大な情報の蓄積を容易にするとともに分析の高度化をもたらす。
- 一方、医療等分野でのICT技術の導入には一定の費用がかかるとともに、取り扱われる情報は機微な情報も多く、国民がメリットを実感できるかたちで、ICTの導入を自己目的化することなく、進めていくことが重要。



厚生労働省として、医療等分野のICT化を効果的に進めていくためには、社会保障制度改革の方向性を踏まえ、医療等分野における課題に対してICTをどのように活用していくのかを明らかにした上で、施策を進めていくことが重要

# 今後の医療等分野の改革の方向性

社会保障制度改革国民会議 報告書(平成25年8月6日)(抄)

## 社会保障制度改革国民会議の報告書にみる今後の医療等分野の方向性

地域医療・介護連携  
地域包括ケアシステム

- 高齢化の進展により、疾病構造の変化を通じ、必要とされる医療の内容は、「病院完結型」から、**地域全体で治し、支える「地域完結型」**に変わらざるを得ない。
- 医療改革は、提供側と利用者側が一体となって実現されるもの。「必要なときに必要な医療にアクセスできる」という意味でのフリーアクセスを守るためには、**緩やかなゲートキーパー機能を備えた「かかりつけ医」の普及**は必須。
- 急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、早期の家庭復帰・社会復帰を実現するとともに、受け皿となる地域の病床や在宅医療・介護を充実。川上から川下までの**提供者間のネットワーク化**は必要不可欠。
- 医療・介護の在り方を地域毎に考えていく**「ご当地医療」**が必要。

**ICT技術を活用することで、地域の医療機関や介護事業者による迅速かつ適切な患者・利用者情報の共有・連携を推進**

データ収集と分析  
に基づく政策等

- QOLを高め、社会の支え手を増やす観点から、健康の維持増進・疾病の予防に取り組むべき。**ICTを活用してレセプト等データを分析し、疾病予防を促進。**
- 医療行為による予後の改善や費用対効果を検証すべく、**継続的にデータ収集し、常に再評価される仕組みを構築することを検討**すべき。

**ICT技術を用いたデータの分析・活用による、国民の健康管理、施策の重点化・効率化、医療技術の発展、サービスの向上を推進**

# I 医療情報連携ネットワークの普及促進による医療の質の向上と効率化の実現

地域の医療機関や介護事業所の連携による患者・利用者の状態にあった質の高い医療や介護の提供が重要。迅速かつ適切な患者・利用者情報の共有に向けてICT技術を活用する、医療情報連携ネットワークの普及・促進を図る。

医療情報連携ネットワークシステムの

## 4つの課題

費用面を含むネットワークの持続可能性の確保、効果的な稼働の継続

ネットワーク間等での情報の相互利用性の確保

より多数の医療機関の参加と情報の双方向性の確保

本人による健康・医療情報の利活用

今後の普及・展開のための

## 5つの取組

### ● 目指すべきネットワークモデルの確立・普及

- ・ 持続可能性、相互運用性、最低限備えるべき情報連携項目等を示したネットワークの「標準モデル」の確立
- ・ 地域医療構想(ビジョン)や新たな財政支援制度を踏まえた「標準モデル」の普及促進の検討



### ● 在宅医療・介護を含めた標準規格の策定・普及

- ・ より広域での医療情報連携や、在宅医療・介護分野の情報連携に関する標準規格の策定・普及



### ● クラウド技術の活用等による費用低廉化方策の確立



### ● 個人による疾病・健康管理の推進

- ・ 生活習慣病に係るICTを活用した手帳の利活用に向けた取組や予防接種スケジュール等情報提供サービスの促進



### ● 遠隔医療の推進

- ・ 医療従事者等のリテラシー向上等の普及促進策の検討



## II 医療等分野の様々な側面におけるデータ分析と利活用の高度化の推進

今後の医療・介護政策においては、エビデンスに基づく効果的な施策立案、医療技術の向上、医学研究の推進に取り組むことが不可欠。我が国の医療・介護制度における様々な側面において情報が効果的・効率的に利活用され、情報の利活用の効果が国民に還元される社会の実現を図る。

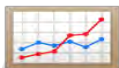
医療等分野におけるデータ利活用の

### 3つのフェーズ

国や地方公共団体による  
医療・介護政策への  
反映



保険者による個人の健康  
増進に関する取組  
への活用



治療技術等の医療の質向上や  
研究開発促進への活用



今後の推進のための

### 9つの取組

#### 医療や介護のレセプト情報等の利活用の促進

- 医療レセプトや健診情報等の活用を通じた、受療行動や疾病構造の分析等を行い、エビデンスに基づく医療政策(地域医療構想(ビジョン)の策定等)を推進
- 要介護度別のサービス利用状況の分析等によって、地域別の特徴や課題、取組等を客観的かつ容易に把握できるように、介護・医療関連情報を広く共有(「見える化」)するためのシステムを構築し、エビデンスに基づく政策を推進

#### データヘルスの推進

- 医療保険者が、レセプト・健診情報等の情報を活用し、加入者に対して効果的かつ効率的な保健事業を実施できるよう支援

#### 医療の質向上や研究開発促進への活用

- 医薬品等の安全対策のための医療情報DBの構築
- 日々の診療行為や治療結果等を一元的に蓄積・分析・活用する関係学会等の取組の支援
- 難病対策等の推進のための患者データベースの活用促進
- がん登録データベースの構築
- 予防接種記録の電子化に取り組むとともに、疫学調査や研究開発、予防接種施策の発展に活用できるデータベースを構築
- 臨床研究・治験の効率化、迅速化及びデータの質の確保のための技術開発等

## データ利活用や情報連携のコンテンツ ➔ 官民連携による創出・充実の推進

データの分析に  
基づく施策立案  
(NDBや介護  
保険DBの分析)

データ分析に基づく  
保健事業

地域の医療・介護情報  
連携ネットワークの構  
築・普及

ICTを活用した個人  
の健康管理促進

活用目的に応じた  
診療DBの構築・分析  
(例)

- 医療情報DB
- 難病DB
- NCD

学術研究への  
利活用

新たなサービス  
としての利用

個人情報の保護と利活用のためのプライバシールール

広域かつ長期の情報共有のためのデータ追跡性、正確性向上に向けた取組み

情報共有をより効率的に行うための通信方式・用語・コード等の標準化

既存のネットワーク等のインフラの有効活用の方策

各種費用の低廉化

社会保険制度を  
基盤としたデータの蓄積

データ利活用や情報連携のためのICT基盤となる仕組み

➔ 社会インフラとしての国の積極的関与による制度・基盤整備

# 医療等分野におけるICT活用の将来イメージ(10年後の姿)

急性期から在宅医療介護までの機能分化と連携の推進や、地域包括ケアシステムの構築に寄与するような、ICT技術を活用した医療機関間や医療機関と介護事業所との間の情報共有が全国の各地域で効率的に行われ、住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。

全ての医療保険者においてICTを活用した情報分析等に基づく効果的な保健事業が実現されることにより、加入者の健康増進や医療費の適正化が図られる。

社会保険制度を基盤とする大規模データについて、多角的かつ高度な分析手法が確立されることにより、医療等分野における政策がさらにエビデンスに基づいた適確なものとなり、様々な社会資源が効果的・効率的に活用される。

我が国の医療・介護制度における様々な側面において、情報利活用の基盤が整備され、情報利活用や分析の高度化を推進。これにより、様々な情報が、医療技術や医療の質の向上、医学研究の発展というかたちで国民に最大限還元。

必要な環境整備が行われた上で、医療情報の番号制度が導入され、データの長期追跡性の向上、分野横断的な情報利活用・分析が可能となる。

